



2025 年 11 月 17 日

地方×大都市・日韓トップ理工系が初タッグ — 宮崎大学とソウル科学技術大学校が次世代エンジニア育成を目指す —

この度、ソウル科学技術大学校（韓国・ソウル市）から 8 名（学生 7 名、研究者 1 名）を招聘して、6 日間の研修プログラムを実施することとなりましたのでお知らせします。

これは、日本科学技術振興機構（JST）が行う国際青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプログラム」に採択されたことを受けて実施するものです。今回のプログラムでは、両大学の工学系学生約 20 名が合同チームを結成し、卒業研究成果の最終デモンストレーションと発表を対面で行うほか、日本の最先端研究・モノづくり現場・農学実習施設の見学、文化交流を通じて広い視野を養います。

特に、①工学×農学×先端科学を体験し、AI・IoT 応用からフィールドサイエンスまでの異分野融合型の研修となっていることと、②小規模地方都市と大都市圏大学の協働により、多様な社会課題を体感できる研修となっていることなどが特徴です。

本年は、日韓国交正常化 60 周年にあたります。今回の国境を越えた連携により、イノベーション人材の育成を行うとともに、草の根レベルでの交流をこれまで以上に活発化させていきたいと考えておりますので、取材についてご検討いただければ幸いです。

▼取材可能な日程とプログラム内容

11 月 18 日（火）午後（場所：宮崎大学附属図書館）※木花キャンパス

【害獣追い払いロボットの組立と性能評価】

本年度 4 月より、ソウル科学技術大学校と宮崎大学工学部の学生が参加する「International Capstone Design」オンライン共同研究教育を実施しています。本プログラムでは、両大学の学生が協働で研究作品の設計・製作・デモンストレーションを行い、その成果を発表・討論する教育活動を体験します。特に、宮崎大学農場で発生する動物被害を想定し、被害を与える動物を検知・追跡し、追い払うロボットの開発に取り組んでおり、その成果と体験を共有します。

11 月 19 日（水）（場所：宮崎大学工学部）

【（午前）ボッチャボール回収ロボットの組み立て作業など】

共同に開発した経路アルゴリズムを導入するボール回収ロボットの組み立ての体験と動作確認を行います。

【（午後）ボッチャボール回収ロボットを用いた新たな支援技術への挑戦】

障がい者スポーツにおける新たな支援技術を創出することを目的として、効率的なボール回収を実現するためには、ロボットによる最適なルート探索と、それに基づく経路生成が重要です。午前中に組み立てたロボットを用い、両国の学生がオンラインで共同開発した成果について、検証および評価を行います。また、問題点を抽出し、改良に向けたディスカッションを実施します。

お問い合わせ先

工学部工学科機械知能プログラム 准教授（李）

メール：geunho@cc.miyazaki-u.ac.jp

TEL:0985-58-7421

発信元

企画総務部総務広報課

メール：kouhou@of.miyazaki-u.ac.jp

TEL:0985-58-7114